

学校法人小松短期大学
小松短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

小松短期大学の概要

設置者	学校法人 小松短期大学
理事長名	加納 實
学長名	鹿野 勝彦
ALO	相内 信
開設年月日	昭和63年4月1日
所在地	石川県小松市四丁町又1-3

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
地域創造学科		120
	合計	120

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
分類管理専攻科		40
臨床工学専攻科		20
保健言語専攻科		20
	合計	80

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

小松短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成22年3月18日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成20年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、21世紀に向けて国際化・高齢化・成熟化に対応したより豊かで潤いのある快適な社会作りの頭脳としての機能、及び地域の就職機会の拡充と若年層の定着、さらには産業・文化の発展、強化等を目的として、昭和63年に石川県・小松市・地元産業界等の参画による第三セクター方式で創設された。開学当初は、産業情報科単科であったが、時代の変化に合わせ、コース制を導入し、時代の変化に対応しながら地域で必要とされる人材を養成してきた。

平成17年度より、学科名称を地域創造学科と変更し、独自性の強い人材養成目的に合わせて独自の「ステージ制」を導入している。ステージの内容も時代の要請にあわせて変化してきたが、現在では「臨床工学ステージ」「保健言語療法ステージ」「診療情報管理ステージ」「IT&オフィスステージ」「航空ビジネスステージ」「生産システムステージ」からなる六つのステージに分かれている。ステージごとに明確な教育目標を立て、多様な職業教育を行っており、特に専攻科を活用して3年間で専門資格を取得する教育プログラムは注目に値する。また、地域と連携し企業からの社会人学生を受け入れている「生産システムステージ」の取り組みにも特色が見出される。

ステージ制による幅広い専門分野に対応するため、短期大学設置基準で必要とされる教員人数を大きく上回る専任教員が配置されている。ステージごとにステージ担当教員団が組織され、ステージ主任及びクラス担任が配置されており、教員が一丸となって教育にあたらうとする姿勢がみられる。

単位の認定、単位の取得状況はおおむね良好であり、休学者や留年者は非常に少ない。また、学生の満足度調査結果を積極的に教育内容・教育方法の改善に生かそうとする姿勢がみられる。

キャンパス内に学生寮を持つなど学生生活を支援する施設・組織も充実している。サークル活動への加入率は高く、優秀な成績をあげる体育系クラブも存在する。

研究費や研究室などの研究に関する環境条件については整備されている。

運営面では、理事会に地元市長、商工会議所会頭が参画しているほか、事務局にも

市役所からの出向職員が勤務しているなど、地域と一体となって短期大学の運営がなされており、教員や学生の社会的活動も活発である。平成 19 年度に策定された「経営改革と財政改善等に関する集中改革プラン」及びそのプランを基に平成 20 年度に策定された「中期財務計画」に基づき、財務状況の改善に取り組んでいる。改革の成果として平成 16 年度に 168 人であった在学学生数が平成 20 年度には 230 人、平成 21 年度には 236 人と着実に増加しており、地域と一体となって取り組む規模の小さな短期大学の経営改革の事例として注目される。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 生産システムステージという、工場等の現場経験を持つ社会人のみを対象としたリカレント教育を専門に行うステージを設置し、地域社会の要望に対応している。
- 共通科目として「地域創造学」を開講し、地域の行政、企業、福祉などの第一線で活躍する人材を外部講師として招き、学生の地域社会に対する認識と、その一員としての自覚を深めることを目的として実施している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 指定する資格・技能検定試験に合格した学生に検定料相当の金額を奨学金として支給し、学生の資格取得の経済的支援とともに勉学意欲向上に資している。
- 社会人等、多様な学生を受け入れる体制が整えられている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学長のリーダーシップによって平成 20 年度の「中期財務計画」は教職員全体の合意形成のもとに作成されている。
- 教職員各自が自己点検・評価を実施するために目標管理シート（年間の活動計画書

及び年度末に提出する自己点検評価書)を導入し、教員の教育、研究、管理運営、社会連携の四つの活動について、計画・評価を行い意欲や実績の向上を目指している。また、昇任の際の資格審査にも利用されている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「教育目的」の記述内容が学則の条文と学生便覧の文章とで相違するので、その関係を明確にする必要がある。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- リカレント教育を行う生産システムステージの教育の実施に当っては、短期大学教育の水準の維持向上を図る改革とその実施において、当該短期大学の主体性が十分担保されるよう留意されたい。
- シラバスに記載されている授業科目の一部の科目について、作成されていない科目や記載項目の不足がみられるので、学科にふさわしいシラバス作成の検討が望まれる。
- クラスアワーは共通科目必修 1 単位(講義)として設定されているので、単位化にふさわしい内容を検討する必要がある。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 「ステージ制」という柔軟な教育システムをとることによって、地域及び時代の要請に合った多様な学生を受け入れているが、ステージの改廃、増設にあたっては学位課程教育としての短期大学の在り方に留意して検討することが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究業績の定期的な公表の手段と研究業績数の増加に向けて検討が必要である。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会、評議員会の委任状については、委任する議案が明確になるよう形式を考慮されたい。
- 管理に必要な諸規程は整備されているが、不十分な規程もあるので、更なる規程の見直しが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は、21世紀に向けて国際化・高齢化・成熟化に対応したより豊かで潤いのある快適な社会作りの頭脳としての機能、及び地域の就職機会の拡充と若年層の定着、さらには産業・文化の発展、強化等を目的として、地域の支援を受け、昭和63年に石川県・小松市・地元産業界等の参画による第三セクター方式で創設された。開学当初は、産業情報科単科であったが、時代の変化に合わせ、コース制を導入し、時代の変化に対応しながら地域で必要とされる人材を養成してきた。

平成17年度より、学科名称を地域創造学科と変更し、各々に独自性の強い人材養成目的を持つ「ステージ制」を導入している。ステージの内容も時代の要請にあわせて変化してきたが、現在では「臨床工学ステージ」「保健言語療法ステージ」「診療情報管理ステージ」「IT&オフィスステージ」「航空ビジネスステージ」「生産システムステージ」からなる六つのステージに分かれている。「地域に密接に結びつき支えあう高等教育機関」という文言を教育目標にうたい、地元密着型の短期大学としての性格を明確にしている。学科内に設置するステージの新設や改廃を通して絶えず教育目的・教育目標についての見直しが組織的に行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

高い専門性を持ったステージ、専攻科が設置され、それぞれの教育目的・目標に従って教育課程が編成されている。目指す職業や資格に応じて履修モデルやコア科目を明示し、また推奨資格と対応科目を明示している。特に専攻科を活用して3年間で専門資格を取得する教育プログラムは注目に値する。また、地域と連携し企業からの社

会人学生を受け入れている「生産システムステージ」の取り組みにも特色が見出される。なお、リカレント教育を行う生産システムステージの教育の実施に当っては、短期大学教育の水準の維持向上を図る観点からみて、企業が設定している「新コマツ工専」との関係において、当該短期大学の主体性が十分担保されるよう留意されたい。また、シラバスについては、一部の科目について掲載されていない点や記載項目の不足がみられる点については改善が望まれる。

教育課程の改善に関しては、学長がリーダーシップを発揮し、授業アンケート結果を各教員の目標管理シートの参考資料としたり、学長が独自のアンケートを実施するなど、積極的に授業内容、教育方法を改善しようとする意欲がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

ステージ制による幅広い専門分野に対応するため、短期大学設置基準で必要とされる教員人数を大きく上回る専任教員が配置されている。ステージごとにステージ担当教員団が組織され、ステージ主任及びクラス担任が配置されており、教員が一丸となって教育にあたらうとする姿勢がみられる。また、目標管理シートの導入により、教員の活動がバランスよく実施されるよう工夫されている。なお、「ステージ制」という柔軟な教育システムをとることによって、地域及び時代の要請に合った多様な学生を受け入れているが、ステージの改廃、増設にあたっては短期大学設置基準及び本協会が実施している「地域総合科学科（総称）」の認証制度の趣旨に留意して検討することが望まれる。

教育環境は十分な面積と、各種専門領域に必要な特別教室が確保されている。卒業生や地域の一般市民に向けても図書館の積極的な利用を促進しようとする姿勢がみられる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定、単位の取得状況はおおむね良好であり、休学者や留年者は非常に少ない。また、学生の満足度調査結果を積極的に教育内容・教育方法の改善に生かそうとする姿勢がみられる。退学者は1年間に平均10人程度いるが、学生個人のメンタル面のケアや入学前教育・リメディアル教育の充実など、積極的な対策をとっている。

就職者の大半は学習した内容を生かした専門就職に就いている。歴史が浅く卒業生を出し始めて間もないステージや卒業生が出ていないステージもある。今後、同窓会活動の活性化の取り組みやリカレント教育のステージ卒業生に対する調査が予定されているが、学生による卒業後の評価や卒業生に対する評価は十分に定まっていない。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学時にクラス別に4日間にわたってガイダンスを行うことを初め、規模の小さい短期大学の特性を生かし、きめ細かい学生支援が行われている。

サークル加入率が71%と高く、体育系のクラブ活動も活発である。学生寮がキャンパス内に配置され、学生食堂等の施設も充実している。学生生活を支援する施設・組織も充実している。

キャリアガイダンスを毎年30コマ開催し実施している。委員会（現在はキャリア形成支援委員会）を組織し、キャリアカウンセラーも配置して対応するなど、就職に関する支援体制は手厚く、高い就職率を達成している。

評価領域Ⅵ 研究

研究費や研究室などの研究に関する環境条件については整備されている。限られた専任教員人数で多様な開講科目を担当することから、必然的に教育に関する負担の割合が高く、研究よりも教育を重視している学内風土であるとはいえ、高等教育機関として研究活動の充実と研究成果の公開の取り組みの充実が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

第三セクター方式で設立された経緯から、地域と一体となった社会的取り組みは積極的に推進されている。それが教職員の目標管理の項目にも位置付けられており、組織として社会的活動を推進する体制が構築されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営に関しては、理事会に地元市長、商工会議所会頭が参画し、その下の経営改革会議において理事会で審議する案件のうち重要案件を事前に十分な協議を重ね、今後持続可能な施策を積極的に導入するなど、将来の方向性を明確にした上で理事会において意思決定するという形を確立している。

短期大学の運営においては、学長のリーダーシップの下に教授会は月1回以上開催され、当該短期大学に係る教育研究上の事項が審議、決定されている。

事務組織の管理運営に関しては、事務局にも地元市役所からの出向職員が勤務しているなど、地域と一体となって短期大学の運営がされている。諸規程が整備されているが、不十分な規程もあるので、更なる規程の見直しが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

平成19年度に策定された「経営改革と財政改善等に関する集中改革プラン」及びそのプランを基に平成20年度に策定された「中期財務計画」に沿って改善に取り組み着実に財務状況を改善している。改革の成果として平成16年度に168人であった在学人数が平成20年度には230人、平成21年度には236人と着実に増加しており、地域と一体となって取り組む規模の小さな短期大学の経営改革の事例として注目される。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価の組織・規程が整備され適切に運用されている。特に自己点検の手法として全教職員に対して目標管理制度を導入しており、年度当初に目標を立て年度末で評価を行い、各自の業務について次年度への改善に生かす取り組みを取り入れている。